



# 「あきたのそこちから」に学ぶ 市を挙げて、「ふるさとキャリア教育」に取り組む！

本通信6号において、「秋田県は人口減少率が全国一で、ふるさとがなくなってしまうという危機感から、ふるさとを担う人材の育成についての本気度が違う。」と紹介しました。今号では、大館市が市を挙げて取り組んでいる「ふるさとキャリア教育」を紹介します。

## 大館ふるさとキャリア教育とは ~大館盆地を学舎(まなびや)に 市民一人一人を先生に~

「ふるさと教育」だけでは、人材流失の歯止めにならず、「キャリア教育」だけでは、人材の流失を加速させるだけ

### ふるさとキャリア教育

ふるさとの地に、自らのアイデンティティと誇りを培う「ふるさと教育」とふるさとの基盤上に、自らの人生の針路を描かせる「キャリア教育」を融合

大館市の「ふるさとキャリア教育」は、平成23年度にスタートしました。大館市の校長会のテーマも「ふるさとキャリア教育を根幹とした特色ある学校経営の推進」となっており、大館市内の全小・中学校で「ふるさとキャリア教育」に取り組んでいます。

### 特色

#### ① 百花繚乱作戦

2011年度から市内の全小・中学校で行われている体験学習。各校が、地域や学校の特色・課題を踏まえた1つのテーマに基づき、地域と協働しながら子どもたちが取り組みを推進する。[城南小学校のテーマは「プロジェクト」(ジェイ)]

#### ② 子どもハローワーク

市内の小学1年生から中学3年生を対象に、企業や公共機関、各種施設での職場見学や体験を提供する教育課程外活動。大館市教育委員会が運営し、2012年からスタートした。毎年延べ2000人以上が、週末や長期休業中を利用して参加している。見学や体験先は多種多様で、子どもは自分がやりたいことを選び、何度でも参加できる。

### 城南小の「ふるさとキャリア教育」の取組~プロジェクト~

※今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため活動が制限されたり内容が変更されたりしています。

「ふるさとキャリア教育全体計画」を作成し、ねらいや主な活動、関わる主な人を定めている。

#### <ねらい>

城南小の立地条件を生かし、周辺の公共施設や店舗、交通機関等について取材するなどの学習を通して、地域の課題解決に取り組み、次の資質・能力を育成する。

- ① 他から学びながら、自分の生き方に目を向ける力
- ② よりよい解決を目指し、協力して粘り強く取り組む力
- ③ 情報を進んで入手し、正しく整理・分析・活用する力
- ④ どんな場・相手においても、自分の思いを分かりやすく、はっきりと伝える力

<主な活動と関わる主な人> ※各学年の活動を、1年生はJ1、2年生はJ2としている。

- J1 (1年) : 自分でできることをしよう (家の人)  
幼稚園、保育園児との交流会をしよう (幼稚園児、保育園児)
- J2 (2年) : まちたんけんに行こう (店舗経営者、図書館司書、公民館職員、秋田犬会館職員)
- J3 (3年) : わがまち大館調査隊 (大館の行事や伝統を守っている人)
- J4 (4年) : 住みよい大館づくり隊 (高齢者や障害者の方々のための施設で働く人)
- J5 (5年) : 匠プロジェクト (地域で働く様々な業種の人)
- J6 (6年) : プロジェクトJファイナル (ふるさと大館を守り支える人、市役所職員、職能短大職員)

# 城南小6年生の取組～J6:プロジェクトJファイナル

## 6年生の目指す児童の姿

地域よさや課題に対する自分の考えを明らかにし、相手に伝わる工夫を加えて広く発信する。

## 今年度の取組

地域の商店街で働く「仕事人の情熱・大人の本気」を取材し、商店街の良さを紹介するDVDを作成して発信する。

## 2月17日(水) DVD贈呈セレモニー

「学びの集大成(DVD)を発信したい」という6年生の願いを実現するに当たり、わずか10分ほどでしたが、城南小学校と義務教育課をオンラインで結び、取り組んだ内容についての説明を聞いて、質疑応答する機会を持ちました。[義=義務教育課 城=城南小6年生]

義: DVDを作成するに当たって、一番力を入れたところはどこですか?

城: 実際にグループに分かれて商店街を訪問し、インタビューしたり、試食したりした内容を、どのように伝えるかというところです。

義: DVDは、どのようにして作ったのですか?

城: Windows Movie Makerを使って、自分たちで作りました。CM形式にしたり、キャプションも自分たちで考えたりするなど、楽しく伝えることを意識しました。

義: 大館市の良さをしっかり学び、堂々と発表している姿に感心しました。今回の学びも踏まえ、将来にどのように繋げていこうと思っていますか?

城: プロジェクトJで出会った地域の方は、「大館のためにできることはないか」の言葉から地域のために全力を尽くしていました。自分の夢は、医療系の仕事に携わることです。取材をしたお店の方が情熱をもって仕事をしていたように、私は医療従事者として多くの人を支え、相手を幸せにする笑顔で大館に関わっていきたくて考えています。

取材を通して児童が、学習のテーマである「仕事人の情熱・大人の本気」に触れ、学習したことと将来の夢を結び付けて自分の言葉で語る姿から、学びを自分事として捉えていることがよく伝わってきました。また、児童により多くの人に発信するという目標を持たせることで、単なる調べ学習に終わらせていないところに素晴らしさを感じました。

県教委では今年度初めて、県内の小・中学生が自ら課題を発見し、グループで協力しながら課題解決に取り組んだことを5分の動画にまとめた作品を募集する「晴れの国おかやま学びたい賞」を行いました。12月25日には、オンラインでのフォーラムも開催し、お互いの作品についての質問や意見を交流しました。また、参加校には審査員からのコメントを付したフィードバックシートが送付されました。来年度も「晴れの国おかやま学びたい賞」の実施を予定していますので、ぜひ子どもたちの学びの発信の場にしていただけたらと思います。

県内の各校においても、地域の課題を発見し、その解決に向けた取組が行われていると思いますが、子ども同士だけでなく、学校の先生以外の大人からもフィードバックしてもらおう経験をすることは、学びや取組を一歩深めることにつながることから、子どもたちが取り組んだことを発信する場を設定してはどうでしょうか。

## コラム～給食でも秋田と岡山とのつながりが深まりました～

岡山の味を、子どもたちに紹介したいという城南小栄養職員の山川さんの提案で、1月27日(水)の給食は、岡山郷土料理給食でした。メニューは、「たこめし」と「呉汁(ごじる)」でした。多くの児童から、「岡山の料理はおいしい。」「たこめしは、初めて食べたけど、また食べたい。」「たこめしのレシピを教えてください。」と感想が寄せられたそうです。

また、4年生は「ふるさとキャリア教育」で制作した「曲げわっぱ」で、たこめしを食べました。

山川さんは、3学期に実施する様々な郷土食を紹介する期間に向けて年度当初から、岡山県の栄養士の先生とやりとりをしていました。職員がそれぞれの持ち場から、児童にプラスになる活動を提案していくことが、城南小の強みだそうです。

